

# 第Ⅰ回 持続可能な交通安全施設の整備の在り方に関する検討会 議事概要

## Ⅰ 開催日時

令和2年7月14日（火） 10:00～11:30

## Ⅱ 開催場所

奈良県警察本部4階 第一会議室

## Ⅲ 委員等

### (Ⅰ) 委員

|        |    |    |                      |
|--------|----|----|----------------------|
| (委員長)  | 蓮花 | 一己 | 帝塚山大学学長              |
| (副委員長) | 飯田 | 克弘 | 大阪大学大学院准教授           |
| (委員)   | 中村 | 秀雄 | (一財) 奈良県老人クラブ連合会会長   |
|        | 原  | 久弥 | 国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所長 |
|        | 西橋 | 奈穂 | 奈良県こども・女性局女性活躍推進課長   |
|        | 岡部 | 共成 | 奈良県県土マネジメント部道路政策官    |
|        | 六車 | 憲雄 | 奈良県県土マネジメント部道路保全課長   |
|        | 稲葉 | 功  | 奈良県教育委員会保健体育課長       |
|        | 山崎 | 友宏 | 奈良県警察本部交通部長          |
|        | 金田 | 実  | 奈良県警察本部交通部参事官        |
|        | 今村 | 浩三 | 奈良県警察本部交通部交通規制課長     |
|        | 松岡 | 成明 | 奈良県警察本部交通部交通管制官      |

### (Ⅱ) 事務局

奈良県警察本部交通部交通規制課

## Ⅳ 議事進行

### (Ⅰ) 開会

- ・ 事務局より開会を宣言
- ・ 事務局より検討会の趣旨説明
- ・ 奈良県警察本部交通部長より挨拶

本格的な人口減少と超高齢社会が進む中、県税収入の伸び悩みや、少子高齢化の進行に伴う扶助費等の増大による、財政の硬直化が見込まれる。このような情勢の中、今後の交通安全施設の整備については、限られた財源の中で、最大の効果を上げるべく「選択と集中」を進める必要があることはもちろん、進むべき方向性を見据え、効率的に歩みを進めていけるようなビジョンを描く必要がある。

### (Ⅱ) 委員紹介

事務局より各委員の紹介

### (3) 委員長の選出

委員の互選により委員長の選出

(事務局【案】として蓮花委員を推薦し、各委員の承認を得た。)

### (4) 委員長挨拶

かなり大きなテーマであるが、これから人口や財政が減少し、この中で交通管理というものをどうしていくのか。例えば、奈良県で信号機に変わる何かを行うといったときに、どういうものが浮かぶのか。奈良県の歴史文化、あるいは観光という中で、信号に変わるものとして、どういう内容が最も好ましいのか、なかなか一口では言えないので、検討会で議論していきたい。一方で、震災があって停電が発生すれば信号機が動かないので、それに変わるものとして、ラウンドアバウトが提案されている。信号機自体も変わってきているが、それ以外でも「二段階横断」など、いろんな施策、技術が提案されているので、そういうものを上手く組み合わせて、街づくりの一環として、交通管理が進展していければいいなと考える。

### (5) 副委員長指名

規約に則って委員長が飯田委員を指名

### (6) 議題検討

テーマ「交通を取り巻く現状と交通安全施設の持続可能性を確保するための課題の整理」

ア 主な交通安全施設、交通安全施設の対応区分の例

イ 交通を取り巻く現状、交通安全施設の現状

ウ 交通安全施設の見直し

エ 自由討議

### (7) 委員意見

- ・ 老年人口が増加する一方で、生産年齢人口が減少の一途をたどっていることから、高齢者が活動しやすい道路環境作りが重要である。
- ・ 財政状況が厳しくなる中、交通安全施設をできるだけ有効に使っていくことが、議論の流れである。
- ・ 自動運転であろうと、人であろうと、道路から情報をもらわなければならない。警察の標識・標示や道路管理者の区画線が確実にあることが大前提であり、管理瑕疵を問われないう、いかに管理していくかが大切である。
- ・ 高齢ドライバーとしては、信号機も必要だと思うが、相当な費用がかかるので、信号機よりも「この先交差点あり」「この先急カーブ」等の文字を使ったサインを増やしてもらう方がありがたい。
- ・ 道路管理者による法定外表示の設置、車両のカーナビによる注意喚起など、高齢ドライバーにとって分かりやすい情報提供は何がいいのか、難しい課題ではあるが、非常に重要である。
- ・ 中央自動車道の笹子トンネル天井崩落事故後、道路法が改正されて、道路管理者には5年に1回の頻度で道路付属物等を点検することが義務づけられているが、警察としても、予算を確保して、確実に点検し、危ない施設から順次対策を行う必要がある。
- ・ 「毎年健康診断を受けて早期治療を行うことが社会保障費の抑制につながるが、

これは道路構造物でも同じことが言える。」と説明すれば、老朽化対策に関する県民の理解を得やすい。

- ・ 交通安全施設の維持管理を行う体制や予算をどう確保するかも課題ではないか。
- ・ 交通安全施設の点検だけにこだわらず、高齢者の移動の確保も重要であるので、両輪で議論すべきである。
- ・ 全国で発生した倒壊時の交通安全施設の状態と判定結果の適否をデータ化して集約していけば、簡単な人工知能で健全性のランク分けができるので、この検討会で「点検のＡＩ化」みたいなことも発信できればと思う。
- ・ 個人がタブレットを１台持っていれば、ＥＴＣ２．０から得た危険情報を活用した「スピード落とせ」等の注意喚起を直接情報として伝達できる。
- ・ 子供のオンライン教育を目指して国民１人１人にタブレットを配布する国の方針があるが、ＩＣＴインフラということも考えれば、これまでとは違う安全対策、ハードに頼らない方法もあるのではないかな。
- ・ 交通事故情報を発信してデータベース化するものの基礎として使えるように考えていく必要がある。
- ・ 信号機を撤去した場所だけの問題ではなく「どういう街づくりの一環として信号を撤去し、その結果、街全体にどのような良い影響があるのか（あったのか）」「安全面の向上だけでなく、こういう暮らしができる」というストーリーが必要である。

#### (8) 閉会

- ・ 奈良県警察本部交通部参事官より謝辞  
県警察として、委員の皆様と３回にわたり検討会を開催し、今後の交通施設の整備や老朽化対策、予算措置などの取り組みの糧にしたい。
- ・ 事務局より閉会を宣言